

令和7年度

宮崎国際大学入学者選抜試験問題

国

語

国際教養学部
教育学部

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて 27 ページあります。（問題は 2 ページからです。）
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れなどがあった場合には、直ちに手を上げて監督者に申し出てください。
4. 試験開始後、解答用紙の所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入してください。
5. 解答は、問題ごとに、解答用紙の指定された箇所に記入してください。
6. 時間内に解答し終わっても、退出することはできません。
7. 試験中に質問等があるときは、黙って手を上げて監督者を呼んでください。
8. 不正行為に対しては、厳正に対処します。不正行為があった場合は、その時点で受験を中止し、退室してもらいます。また、試験結果を無効にします。
9. 問題冊子は、試験終了後持ち帰ってください。

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注1) ヘーゲルはお互いの自由を認め合うことを民主主義社会の基本原理に据えましたが、それは個人の生き方や考え方を認めあうということであり、価値観の多様化を①コウテイすることを意味します。

また、個人の自由を認めるということは、その人がどのような価値観、ライフスタイルであっても受け入れるということ、あるがままの存在を承認するということです。これは「存在の承認」を与えることに他なりません。「存在の承認」に、(a)価値のある行為をしたかどうかは関係ありません。その人がどのような行為をしようと、どのような考え方をしようと、他人の迷惑にならないかぎりには認める、ということなのです。

「存在の承認」の原型が親和的承認であることは、(注2)すでに述べてきたとおりです。私たちはここまで、家族、親友、恋人など、親密な関係における無条件の承認のことを親和的承認と呼び、きわめて重視してきました。その内実は、愛情に基づく存在そのものへの承認だったはずですが。

A、「存在の承認」には親和的承認とは異なるものもあります。それは、人種や民族、生まれ、貧富、生き方が違っていても、あるいは高齢者、子ども、女性、障害者であっても、差別せず、その存在をありのまま認める場合です。

これは、民主主義の②根幹をなす人権の承認であり、親密な関係ではない見知らぬ人々に対する「存在の承認」と言えるでしょう。

私たちは親密な人々に対しては甘いし、無条件に認めてしまうところがあります。これに対して、見知らぬ人々、特に価値観の異なる人々に対しては、無関心であったり、否定的であったり、厳しい態度をとる人も少なくありません。価値観が異なれば、(注3)「行為の承認」の基準も異なり、異なる価値観を認めれば、自分の行為や存在を否定することにもなりかねない、そんな危機感があるからで、(b)これも(注4)承認不安が生み出す異質な存在への嫌悪なのです。

また、価値観が異なるというより、価値ある行為が十分にできない状況にある人々、たとえば病気を患った人、障害者、後期高

齡者、^③ヨウジなど、一定のケアが必要な人々に対しても、同じ理由から差別をする人がいます。

今日のように、多様な人々が集う共生社会においては、外国人や高齢者が激増し、異文化間、世代間における価値観のギャップはますます大きくなりつつあります。

B、患者、障害者との共生も、私たちの社会の重要な課題となっています。そうした中で、お互いに「存在の承認」を与え合うことは、もはや避けることのできない問題と言えるでしょう。

本人の意志や行為では変えられないような、^④シユツジ、年齢、性別、障害などは、決して否定されるべきではありません。どんな肌の色であろうと、どんな思想や信仰、趣味、感受性を持っていようと、それだけで存在そのものが否定されるなど、あつてはならないことなのです。

他人に対して意図的に迷惑をかけないかぎり、誰もが「存在の承認」を保証される必要があります。それは、「ありのままの存在」をお互いに認め合わなければ実現しないのです。

「存在の承認」が保証されれば、私たちは自由に生きることができます。あるがままの自分が否定されないのですから、それも当然のことでしょう。

C、「存在の承認」は自由の承認でもあるのです。そこに自由と承認の葛藤はありません。自由と承認の葛藤は、自由と「行為の承認」の葛藤であり、自由な行為に対する価値評価が問題になるときにのみ、^⑤ケンザイ化するので

相互に自由を認め合い、「存在の承認」を保証し合うためには、一定のルールが必要になります。それは、個人の自由を侵害しないためのルールであり、他人に迷惑をかけない、傷つけない、といったような、誰もが納得できるようなルールでなければなりません。

このようなルールを指定するには、一定の価値基準を共有している必要があります。これは多様な価値観を認め合うことと矛盾するように思えるかもしれませんが、しかし、生き方や思想、信条、ライフスタイルなどの価値観が異なっても、善悪に関わる価値については、必ず一定の共通理解が可能です。

D、人間は自由を求める存在であり、他人の迷惑にならないかぎり、誰もそれを邪魔したり批判することはできない、困

っている人、苦しんでいる人は助けるべきだ、といったような考え方、価値判断は、たとえ文化や生き方、思想・信条が異なっても、ほとんどの人が納得するでしょう。こうした価値の共有に基づいたルールは、大勢の人が望んでいること、みんなの意志として共通了解されるはずなのです。

(注5) ルソーはこうしたみんなの意志のことを、「一般意志」と呼んでいます。民主主義社会の基本は、お互いの自由を尊重し、侵害しないためのルールを決めるところにあります。自由を守るためのルールがなければ、それぞれが自分勝手な自由を主張し、他人の自由や迷惑など考えずに行動し、社会は混乱してしまいうでしょう。そのルールの基準となるのが(注6)「一般意志」なのです。このようなルールの基本にある価値観の共有は、ただ自由を守り、「存在の承認」を保証するだけでなく、認められるための行為の価値基準を明確にし、「行為の承認」の可能性を広げてくれます。

他人に迷惑をかけることは当然であり、ルールを守っただけなら、特に評価されることはありません。しかし、困っている人を助けたり、苦しんでいる人を慰めれば、相手にカン^⑧じゃされ、周囲の人たちにも称賛されるでしょう。これは、E^⑨な行為の価値が認められたわけですから、「行為の承認」が充足された状態です。

また、(注7)陰ながら誰かを助けた場合、相手はこちらの善意に気づかないし、周囲も知らないで誰もほめてくれません。しかし、自分でその行為の価値を理解していれば、「自分はよいことをしている、役立っている」と信じていることができます。「どんな人でも『よい行為』だと認めるはずだ」と確信できれば、(注8)普遍的自己承認が得られるのです。

以上のことから、(注9)現代社会における「自由と承認の葛藤」の意味が見えてきます。

私たちの社会は民主主義の社会であり、自分なりの価値観で自由に生きることが認められています。お互いの多様なあり方を認め合うことで、自由を確保し、「存在の承認」を得ているのです。そこには自由と「存在の承認」(人権の承認)を保証するためのルールが設けられており、それは誰もが納得するような善悪の価値基準にもついています。当然ですが、この価値基準は、趣味や思想・宗教、生き方にまで口出しするようなものではなく、価値観の多様化や自由な生き方を否定しません。それは、自由を守るために最低限必要な善悪の価値基準なのです。

したがって、この共有された価値基準に沿った行動は必ず評価されますし、「行為の承認」を得ることができます。もちろん、ルールを守っただけではなかなか評価されませんが、積極的に困っている人を助ければ、たいいてい人は称賛するでしょう。つまり、価値観が多様化し、承認の基準が不透明なこの時代にあっても、この善悪の基準に沿った道徳的な行為だけは、承認される可能性が高いのです。

価値観の多様化と自由への道は、一見すると、承認への欲望と矛盾し、自由と承認の葛藤、承認不安の増大は必然のように見えます。自由への欲望を満たせば承認への欲望が満たされず、承認を満たすには自由を犠牲にするしかない。そう思っている人も多いでしょう。しかし、ルソーやヘーゲルが構想した民主主義社会の原理には、自由と承認が両立する道が、承認不安を緩和し、自由に生きるための道が示されているのです。

（山竹伸二『ひとはなぜ「認められたい」のか―承認不安を生きる知恵』出題に当たって一部を改変した。）

注1 ヘーゲル ドイツの哲学者（一七七〇―一八三一）。

注2 すでに述べてきたとおりです 本文より前に書かれている内容を指す。

注3 「行為の承認」 ある行為の価値について評価されるような承認。

注4 承認不安 自分が周囲の人に認められているのかどうかという、承認に関する不安。

注5 ルソー 主にフランスで活躍した哲学者（一七一二―一七七八）。

問一 傍線部①、③、⑥と同じ漢字を含むものを、それぞれあとのア、イ、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① コウテイ

ア コウリョウとした原野を見る。

イ その説はシュコウしがたい。

ウ 醤油しょうゆはハツコウ食品である。

エ 高等裁判所にコウソする。

オ コウテツのように強い決意で臨む。

③ ヨウジ

ア 伝説上のヨウカイを研究する。

イ ヨウコウ帰りの芸術家と会う。

ウ 日本ブヨウを習う。

エ ヨウチュウがさなぎに変わる。

オ 物事はチュウヨウが肝心だ。

④ シュツジ

ア ドクジの技術で開発が行われる。

イ ジゼン団体に寄付をする。

ウ スイジ道具を購入する。

エ ジミに富む料理をいただく。

オ 多くの人のシジを得て当選した。

⑤ ケンザイ

ア 文化功労賞のケンショウ式。

イ ケンキョな態度が求められる。

ウ 体操でケンスイをする。

エ ケンゴな守りの城を築く。

オ かつて、二人の仲はケンアクだった。

⑥ カンシヤ

ア 実験器具をシヤフツしておく。

イ オンシヤにより罪を減じる。

ウ 部屋をカーテンでシヤコウする。

エ シヤテイ距離を予測する。

オ 卒業のシヤオン会が開かれる。

問二 傍線部②、⑦の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれあとのア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

② 根幹

ア 不変の事実

イ すべての概略

ウ 最も重要なところ

エ 具体的な事例

オ 基本とその応用

⑦ 陰ながら

ア 反対の立場で

イ 寄り添って

ウ 他人の力で

エ 見えないところで

オ 巧みな方法で

問三 傍線部(a)「価値のある行為をしたかどうかは関係ありません」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、あとのア～

エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「その人」のあるがままの存在を承認するので、他人に迷惑ではない限り行為の内容は問われないから。
- イ 「存在の承認」はどのような価値観であっても「その人」を受け入れるもので、実際の行為の有無は問わないから。
- ウ 個人の生き方や考え方の自由には不変の基準があり、「その人」の行為の善悪は無視してかまわないから。
- エ 「存在の承認」は元来人間の自由に立脚しており、行為の価値は「その人」に決められるものではないから。

問四 本文中の空欄A～Dにあてはまる言葉の最も適切な組み合わせを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

なさい。

- | | | | | |
|---|--------|-------|--------|--------|
| ア | Aーところが | Bーそして | Cーそこで | Dーなぜなら |
| イ | Aーしかし | Bーまた | Cーだから | Dーたとえば |
| ウ | Aーだから | Bーしかし | Cーしかし | Dーつまりは |
| エ | Aーしかし | Bーまた | Cーたとえば | Dーところが |

問五 傍線部(b)「これ」とあるが、「これ」の生じる原因として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分とは異なる価値観を持つ人々の価値観を認めると、自分の行為や存在が否定されてしまうという切迫感。
- イ 親密な人々よりも異なる価値観の人の存在を認めると、自分の行為の尊厳が冒されてしまうという喪失感。
- ウ 見知らぬ人や価値観が異なる人を否定すると、かえって自分の存在や行為が否定されてしまうという恐怖感。
- エ 異質な存在に対しての嫌悪感を前面に出すと、自分の行為の意味や社会的立場が侵されてしまうという緊迫感。

問六 傍線部(c)「『一般意志』」とあるが、その説明として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由を尊重し、互いを侵害しない民主主義社会を形成して、社会の混乱を避けられるように国家が中心となってつくりあげた、市民が守るべきと定義される規範意識である。
- イ 民主主義社会で自由を守るためのルールがなければ、人々は自分勝手な自由を主張して他人の自由や迷惑を考慮しない事態になってしまうので、それを危惧した一般市民から生じた共通の価値判断である。
- ウ 民主主義社会では人々の自由が尊重されるが、勝手に行動すれば混乱を生じかねず、互いの自由を守るためにルールをつくる必要があり、その際に多数の人々が共通に納得した善悪の価値基準である。
- エ 互いの自由を認め合うことが民主主義の原理であるため、個人の生き方や考え方の自由が最も重要であり、他人の迷惑にならなければ誰も妨害することはできないという大勢の人々の意志である。

問七 本文中の空欄

E

 にあてはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 知的的

イ 感情的

ウ 論理的

エ 倫理的

問八 傍線部(d)「普遍」と反対の意味の言葉として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 広範

イ 特殊

ウ 共通

エ 理性

問九 傍線部(e)「現代社会における『自由と承認の葛藤』」とあるが、それが発生する理由を筆者はどのように説明しているか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私たちの現代社会は民主主義社会であり、自分自身の自由な価値観で生きることができるが、その一方で自分の思想・宗教にまで他者が自由に口を出すようになり、自己の承認への不安が生じているからだと説明している。

イ 現代社会では自分が困っている他者を助けることによって「存在の承認」を得ることができる一方で、そのようにしなければ承認されることがない社会の枠組が構築されているからだと説明している。

ウ 現代社会では誰もが納得するルールに基づいて互いの価値観と自由を認め合うことで存在を承認されている一方で、個人としてなしたことを承認される機会が損なわれているからだと説明している。

エ 現代社会は多様な人々が共生する社会なので、価値観が多様化し自分が承認される基準が明確になったため、承認不安が生じる一方で、社会の自由を制限してでも価値基準を統一しようとする恣意的な動きがあるからだと説明している。

問十 本文における筆者の主張として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親和的承認が家族、親友、恋人など親密な関係における承認を意味するのとは対照的に、「存在の承認」は見知らぬ人々の存在を承認するものであるが、親和的承認と同じように他者への愛情なしには承認することができない。

イ 「存在の承認」を社会の中で相互に保証し合えれば、自由の承認が互いに得られたといえるが、まだ自由な行為に対しての評価が得られたとはいえず、「行為の承認」を得るために一定のルールがつくられることになる。

ウ ヘーゲルの述べた民主主義社会の基本原理は、ルソーによって「一般意志」という概念が生み出されたことによって進歩し、承認の価値基準が不透明な現代でも自由と承認が両立し承認不安を解消する方法を導いたといえる。

エ 私たちの社会では多様な価値観が認められているからこそ、お互いの「存在の承認」が得られており、それは誰でも共通に了解する価値基準を根拠としているため、この基準に沿った行動は多くの人に称賛され承認されることになる。

二 二次の文章は、朝井リョウの小説「僕は魔法が使えない」の一節である。主人公の新（あたら）「俺」とナツ先輩は美大生で、ナツ先輩が描いたダンサーの画^えは、美術展で高い評価を受けていた。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「……言ってもいいですか？」

「ハイどうぞ」

「わつつつけわかんなかったつすよね!!」

俺の言葉に、ナツ先輩は（a）むむむむむとなりながら、縦にも横にも見えるように首を振った。と思ったけれどよく見ると、わがままに伸びるトルコ風アイスを切ろうとしているだけだったようだ。

「なんとも言えなかったよね」

「言葉選ばなくてもいいつすよ！俺はマジ意味わかんなかった。作品もだけど、とりあえず助監督のパーマがずっと意味わかんなかったです」

今度は（b）ひやはははと派手に笑うナツ先輩は、「次はあのパーマが意思を持つ話撮ればいいのに」ととても楽しそうだ。今日の先輩は白いシャツにライトグリーンの短パンをはいていて、大きめのチューリップハットを^{まぶか}目深にかぶっている。下北沢は、魔法使いみたいなナツ先輩をも背景のひとつにしてしまう怖い街だ。

R大学の映画サークルが俺達に声をかけてきたのは一カ月ほど前のことだ。正確に言うと、声をかけられたのはナツ先輩だけだった。あのダンサーの画^えを美術展で見て気に入ったという派手なパーマの助監督が、大学を通してナツ先輩に連絡してきたらしい。映画のヴィジュアル監修をしてほしいという依頼で、今回の作品では画面のアーティ性を重視したいからヴィジュアルをなんちゃらかんちゃら、話していた内容はよく覚えていないけれど、ビジュアルをヴィジュアルと言っていたことだけははっきりと覚えている。「新は俺のマネージャーっことだ」と言うナツ先輩に連れられて、なぜか俺も一緒に手伝うことになってしまった。ナツ先輩には「ヴィジュアルアドバイザー」みたいな名前がつけられていたけど、先輩は（注1）エンドロールやパンフレッ

トにそう^(注2)クレジットされるのをひどく嫌がった。

撮影現場には何回か参加した。俺は映画に何かを言える立場ではなかったのでとりあえず^①だんまりを貫き、ナツ先輩はたまに「アイス買ってきていいですか？ 新が」「こうしたほうが遠近法の効果が出るんじゃない」「そのお菓子食べていいですか？ 俺が」「この角度から撮れば？」とかちよこちよアドバイスやらをしていた。ナツ先輩が何か言うたびに、学生スタッフ陣は「なるほど」「こつちのほうが臨場感あっていい」とかやたら感心しながら言っていたけれど、ナツ先輩はいつもと変わらない表情をしていた。

学生スタッフが地を這^はって映画のセンスをつかみとろうとしている様子を、このひとは海岸道路を駆け抜けるオープンカーの助手席から見ている。

「完成披露試写会」は、サークルの追い出しコンパなどでよく使われるというスクリーン付きのカフェで行われた。ランチをしながら、完成した映画をスクリーンに映して観^みるというスタイルだった。見覚えのあるスタッフや見覚えしかない超絶パーマの助監督、むしろ見覚えのない監督などで席はなんとなく埋まっていた。(c)「後ろの方でいいや」とつぶやくナツ先輩にくつついて、俺達はあまり目立たない位置で映画を鑑賞した。

脚本を読んだときから思っていた。全くわからない。俺があまりにもくしゃくしゃな顔をしていたからだろう、ナツ先輩がこっそりと^②耳打ちしてきた。

「大丈夫、俺たちが全くわかっていないんじゃないやなくて、この人達がわかってもらおうと思っていないんだから」

こういうものに触れたとき、俺は、わからない自分に^③落ち度があるのかと思つてとても不安になる。そういう気持ちを、ナツ先輩は見抜いてくれる。

やっぱこのカットがいいよね、お前このシーンやりたかっただけだろ、ここのエキストラさん意外といい演技してるんだよね、このBGM反則でしょ、ここの撮り方娛樂映画みたいでダサイ、このへん九〇年代の北欧映画っぽい意識してない？

スタッフ達は楽しそうにスクリーンを指さしたりしながら談笑していた。完成披露試写会、と名付けられてはいるが、この映

画に関わったひとしかこの場におらず、世界のどこにも披露されていないなと俺は思った。卵がたつぷりと入ったカルボナーラのソースはあつという間に固まってしまった。

「あんなんばかりなんすかね、学生映画って」

俺は、買ったあとにリバーシブルだと気づいたバーカのフードをかぶって、ナツ先輩が買ってくれた桃味の^(注3)クリーリツシュをくわえた。中身はかっちかちなので、今は桃の風味だけを味わうことにする。

「どうなんだろうね。アート性を大事にしたいなんて言われたときから^(注4)危ないなとは思ってたけど……中には面白いのもちろんあるんだろうけどさ」

「普通に^(注4)起承転結のある話撮ればいいのに」

「みんながわかる面白いものっていうのが一番むずかしいよな。誰にもわからないものなんて、誰にだって創れる」

俺達は誰よりも早く試写会場のカフェを出て、下北沢の街をなんとなく歩いている。

アマチュアバンドが集うライブハウス、小さな劇団の公演が行われるシアター……下北沢は、地上よりも地下の方が人がいる気配がする。

「でも撮影自体は楽しかったな」子どもの書く日記のような文体で、ナツ先輩は話し続ける。「お菓子もいっぱい食べられたし。いいな、俺、俳優になろっかな」

「えっマジすか!!」

「そんな外見で!! って言おうとしてやめただろ今」

ナツ先輩はきつと、なろうと思えばなんにだってなれるから、俺はつい目深にかぶったハットで隠れている目の奥を確認しなくなってしまう。どこまで本気で言ってるんすか、なんて聞いたら、きつとまたおかしなことを言うなあという顔で笑うんだろうけど。

「でもさ」

初夏の風が、ナツ先輩の細い髪の毛のすきまを縫っていく。毛先がすらすらと遊ばれて、心地良さが目に見えるようだ。

「ものをつくることに關して、わけわかんないひととそうでないひとは、もう一ミリくらいの差しかないと思うよ」

クーリツシュがやわらかくなってきた。ず、と思いつき吸ってみると、袋がへこんだ分、口の中に桃の風味のみが広がる。

「でも先輩は、わけわかんないつすよ。言ってることとかはたまに意味わかんないときありますけど、作品はちがう」

へえ、とつぶやくナツ先輩は、くちびるをあまり良くない形に歪ゆがませた。なんだか、さっきよりナツ先輩の帽子のかぶり方が

深くなっている気がする。顔が、目が、表情が見えない。

「お前、一浪だったよな」

そう聞いてくるナツ先輩に、俺はクーリツシュをくわえたまま Aうなずいた。

「俺、新と同年の妹がいるんだけど」

まだまだアイスは出てこない。

「妹がハルで俺がナツ。逆だろって感じなんだけどさ。昔はよく話したんだ。お互いのことも、どうってことないことでも。でも妹が高校を卒業してから、そういう空気じゃなくなった。妹もたぶん同じなんだ。何をしたら認められるのかわからない世界にいる。見る人が見たら、わけがわからないって切り捨てられるような世界にいる。俺は妹のことをわけがわからないとは思わない。でも妹は、俺のことどう思ってたんだろうな」

（俺は、ナツ先輩が目深にハットをかぶっていてくれて良かったと思った。いつのまにか先輩のトルコ風アイスはなくなって、いるし、妹がいるなんて話はじめて聞いたし、一体どんな表情で話しているのかも全くわからない。ナツ先輩はいつも、溶けかけたアイスで口をべたべた汚しながら無責任な言葉をためらいなくいっぱい垂れ流すのに、今はそのどちらもが欠けているから、俺は魔法の使えなくなった魔法使いの話を聞いている気分だった。

大学って、そういうところだ。無責任を背負って、自由を装っている。未来どころか、三歩ほど先のことだって、本当は誰にも

見えていないんだ。

俺が魔法の呪文を口にできないまましていると、そのまま下北沢駅についてしまった。

ナツ先輩は、ハットの奥に隠れた目で俺の目を見ている。

「普通の、世の中の九十九パーセントの人から見たら、俺達だつてあの映画と同じなんだよな」

「……あの」

「何？」

「妹さん、ダンサーすか？」

電車が到着する音が、とても大きく響いた。

「お前、次のコンクールは人物画でいけよ。お前、いけるよ。がんばれ」

俺の肩をぽんぽんと叩くと、ナツ先輩はひとりで改札を通って電車に乗ってしまった。まだまだ明るい街の中で、俺は、あの画の中のダンサーはきつとナツ先輩の妹なんだろうと思った。

自分が向き合いたいと思ったものを描くことが一番いいよ。

てのひらの熱で、いつのまにかアイスは溶けていた。ナツ先輩の声が耳の中でくると転がる。新宿とは逆方向に走って行った電車はいつのまにかもう見えなくなっていた。

ナツ先輩が向き合いたかったもの。俺が向き合わなければならないもの。

アイスはどんどん溶けていく。

ナツ先輩は^{注4}あの日の帰り道、確かにそう言っていた。自分が向き合いたいと思ったものを描け、と、さっきまで子供が乗っていたぶらんこのように、ゆらゆらと小さく揺れるいつもの声でそう言っていた。そしてさっき、俺の肩に手を置いて「お前、いけるよ」と言ってくれた。俺は嬉しかった。とてもとても嬉しかったから、頭より先に運動神経が動いていた。それはすごく単純なことだった。

歩き出す。近づく。

「あの」

この人のことを見つけた時から、なぜだか、次はこの子を描きたいと思った。鏡を見るようにこの子と向き合って、納得するまで絵の具を混ぜ合わせなければならぬ、そんな

枯葉を踏むのを楽しむ小学生のように、

C

近づく。

立ち止まる。声が出る。

(g) 「すみません、画のモデルになつてくれませんか？」

誰かと待ち合わせをしていたのであろう女の子は、俺の声に顔をあげた。

(朝井リョウ「僕は魔法が使えない」『もういちど生まれる』所収より)

注1 エンドロール 映画の最後に表示される、出演者や制作者などの名前を列挙した一覧。

注2 クレジットされる ここでは名前が表示されることを指す。

注3 クーリッシュ アイスクリームの商品名。

注4 あの日の帰り道 大学内で風景画を描くことに熱中していた新をナツ先輩が見掛け、声をかけてきた日のこと。

問一 傍線部①～④の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれあとのア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① だんまりを貫き

ア あえて文句を言わず

イ 最後まで黙ったままで

ウ 表情をこわばらせて

エ 知らないふりをして

オ 必ず約束を守って

② 耳打ち

ア 相手の耳元でささやくこと

イ 秘密の内容を知らせること

ウ 聞くにたえない発言をすること

エ 耳に痛い指摘をすること

オ 心の中でつぶやくこと

③ 落ち度がある

ア 短所がある

イ 不安定さがある

ウ 盲点がある

エ 間違いがある

オ 不明な点がある

④ 起承転結のある

ア 展開が予想できない

イ 場面の入れ替わりがない

ウ 組み立てがわかりやすい

エ 主題に発展性のある

オ 変化に富んでいる

問二 傍線部(a)「むむむむむと」、傍線部(b)「ひやははははと」とあるが、それぞれにおけるナツ先輩の説明として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新から映画の感想を求められ(a)では一旦言葉を濁していたが、(b)では新の発言が面白いとすぐに反応している。

イ 新の発した映画評がやや偏っていて(a)では不快感を示したが、(b)では新の思いに寄り添おうとしている。

ウ 新の映画への批判に(a)では納得できない思いであったが、(b)では自分の勘違いに気づいてごまかしている。

エ 新が述べた評価に対して(a)では聞こえなかったふりをしたが、(b)では斬新な評価に笑いをこらえられずにいる。

問三

傍線部(c)「『後ろの方でいいや』とつぶやくナツ先輩」とあるが、ナツ先輩がこのように言ったのはなぜか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 映画のヴィジュアル監修を助監督の依頼で引き受けた以上は、できる限りの指導をして映画の完成に貢献したいと考えていたが、現場での学生スタッフにやる気を感じず撮影に不満を感じていたから。

イ 「ヴィジュアルアドバイザー」として映画サークルでの役割を与えられたものの、自分のアドバイスにただ感心する反応しか示さない学生スタッフに幻滅し、彼らとは距離を置こうと思ったから。

ウ 映画サークルからヴィジュアル監修を頼まれたのはいいが、他の映画のスタッフや映画サークルのメンバーほどの思い入れはなく、自らその映画にかかわっていると公言したい気持ちもなかったから。

エ もともと何事にも慎重で、自分の行為や発言についても遠慮がちな性格のため、映画がやっと完成したことに感動はしながらも、その思いを抑えながら静かに成功の余韻に浸りたいと思っていたから。

問四

傍線部(d)「危ないなとは思ってたけど……」とあるが、ナツ先輩はどのようなことを予想していたのか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「アート性を大事にしたい」という助監督のことばを聞いて、映画サークルの作ろうとしている映画が、自分の理想としている内容本位の映画からは隔たってしまうこと。

イ ヴィジュアル監修を依頼された映画サークルの助監督から「アート性を大事にしたい」と聞かされて、今から創られる映画が理解困難な作品となり、作成者の自己満足に終わること。

ウ 見るからに派手な格好をした助監督が「アート性を大事にしたい」と依頼してきたので、助監督が創ろうとする映画が、芸術性を追求した、高尚な感覚の人間にしか評価できないものになること。

エ 「アート性を大事にしたい」という助監督の依頼を聞いた瞬間に、芸術性と面白さを両立させるという困難な課題を解決する使命が、自分に与えられるであろうこと。

問五

文中の空欄 A、C にあてはまる言葉の最も適切な組み合わせを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア A—とくくと C—そろそろ

イ A—びくびくと C—うろうろ

ウ A—しくしくと C—ぐんぐんと

エ A—こくこくと C—さくさくと

問六

傍線部(e)「俺は、ナツ先輩が目深にハットをかぶっていて良かったと思った」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普段、見てくれなど後回しにして自分の言いたいことを臆面もなく話すナツ先輩だが、あきらかに神経質な様子になって、過去の失敗談を語り出したので、先輩に対してどう繕えばよいかを決めかねていたから。

イ 自分の身の上話を真面目に話し出したナツ先輩には、体裁を気にせず思ったことを口に出すいつものいい加減さも、魔法使いのような不可思議な雰囲気もなく、直視してはいけないものだと感じたから。

ウ 妹がいることを初めて語り、ハットのせいで表情も見えなくなってしまったナツ先輩を間近に見て、つかみどころのない先輩がやつと自分の理解可能な存在に変わり、そのうれしさを先輩に見られたくなかったから。

エ 自分にとっては魔法使いのように思え、やや風変わりな雰囲気をもつナツ先輩が、今日に限ってごく常識的な人間のような話しぶりで語り始めたので、その変化に対応するために冷静になる必要があったから。

問七 傍線部(f)「俺達だってあの映画と同じなんだよな」とあるが、ナツ先輩はどういうことを言おうとしたのか。最も適切

なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 映画サークルの作った映画は、テーマや内容もさっぱり理解できないものだったが、世間の人々の風変わりな作品への評価はその時々で変化するので、映画と同じように自分達もいつかは評価されるということ。

イ 映画サークルの映画は助監督や学生スタッフ達の自己欲求を満足させるためだけのものであり、自分達が目指そうとしている芸術の世界も、最終的には自己満足に過ぎず価値がないものだということ。

ウ 映画サークルの映画は見るに堪えないものと徹底的に非難をしていたが、映画を作った人々の創造への欲求が結実した映画は、自分達の芸術への思いと同様に無限の可能性を秘めているということ。

エ 映画サークルの作った映画には否定的であるものの、自分の感性を信じて取り組んでいることは、世の中の多くの人から見ればわけがわからないと切り捨てられる点で、自分達も映画も似たようなものだということ。

問八 本文中の空欄 B にあてはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夢のような

イ 雷のような

ウ 雲のような

エ 氷のような

問九 傍線部(8)「『すいません、画のモデルになってくれませんか?』」とあるが、ここに至るまでの新の説明として最も適切なものを、あとのア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ナツ先輩が与えてくれたアドバイスから、もともとは人物画が得意であったことを思い出し、その才能を生かすのにふさわしい女の子が現れたので、その子をモデルにしようとした。

イ なぜ目の前の女の子を描きたいと思ったかは自分にもわからないが、直感を信じて行動すれば、女の子が断つても自分の義務を果たせるはずだと、女の子にモデルの依頼をした。

ウ ナツ先輩の言葉は有無を言わせぬ迫力に満ちていて、その結果目の前の女の子から湧き出た直感に導かれることとなり、女の子に自分の画のモデルになってほしいと懇願した。

エ ナツ先輩からの言葉で人物画を描く決意を固め、自分の前にいた女の子を納得のいくまで画にしたいという思いが高まり、すぐさま行動に結び付いて女の子にモデルの依頼をした。

問十 本文での表現や内容の説明として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「くしゃくしゃな」「くるりと」などの擬態語を用いることで登場人物の表情や態度がわかりやすくなっていると同時に、

「学生スタッフが地を這って」「初夏の風が……縫っていく」などの擬人法を用いて、読者に意外性を与えている。

イ 「ハイどうぞ」「えっマジすか!!」などのように、会話文にカタカナや「!!」を用いることで若者らしい会話を生き生きと描き出すと同時に、アイスの描写を何度も挟むことで、登場人物の心情やその変化を効果的に表現している。

ウ 「反則でしょ」「ダサイ」などの若者言葉を用いることで登場人物の無責任さを強調すると同時に、「いつもと変わらない表情」「なんとなく歩いていく」などの客観的な描写によって、若者の思いを間接的に叙述している。

エ 比較的短い一文を多用することで本文全体に独特のリズムが生まれていると同時に、文末表現には過去形だけではなく「見抜いてくれる」などの現在形を用いることで、過去と現在の間で揺れ動く登場人物の心情を表現している。